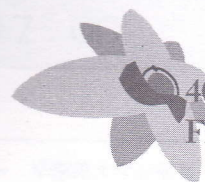


マレーシアの日本語教育と日本留学政策

—マラヤ大学を中心に—



40th Year of ASEAN-Japan
Friendship and Cooperation

木村 かおり (マラヤ大学)
Kimura Kaori (University of Malaya)

1. はじめに

マレーシアは、人口比率の高い順に、ブミプトラ^{注1} (主にマレー系で、先住民族を含む) 67.4%、中国系 24.6%、インド系 7.3%、その他 0.7% (マレーシア統計局 2010 年) の民族からなる多民族国家である。本稿ではマレーシアにおける使用言語、外国語教育の捉え方、日本語学習者、日本留学動向について報告し、その中でマラヤ大学の日本語教育との関わりを述べる。

2. マレーシアの使用言語と高等教育課程における外国語教育の捉え方

マレーシアでは、マレー語^{注2}が国語となっている。中国系マレーシア人は、福建人、広東人、客家人と異なる言語を主に使用する華人の集まりであるが、共通語として、北京語を使用している。また、各民族コミュニティにおいて、タミル語・その他複数の少数民族の言語が使用されている。さらに、英語が歴史的な経緯から植民地時代以来、公用語と同様の働きをしている。つまり、マレーシアでは、マレー語、北京語、福建語、広東語、タミル語、その他の少数民族の言語といった複数の言語が使用されている。このような中、マレーシア人にとって、日本語は完全な外国語である。

マレーシアの教育システムは、教育省と高等教育省の管轄下に置かれている。大学等、高等教育機関は、高等教育省の管轄下である。高等教育省 (2006) 「第 14.8

カリキュラム 外国語教育」^{注3}を見ると、マレーシアは、複数の国際的な言語の運用力の取得、特に英語とマレー語の公用語を学ぶことを外国語教育の目的として掲げることが分かる。高等教育省はマレー語に加え、少なくとも2つの国際言語を習得することが望ましいとし、英語^{注4}として、英語・北京語・日本語・仏語を挙げ

3. マラヤ大学の言語教育

高等教育機関の一つであるマラヤ大学では、言語学部の学科は、英語学科、マレーシア語学科 (マレー語、タミル語)、外国語学科^{注5} (アジア言語、アラビア語学科 (アラビア語及び中東言語) に分かれている。日本語を主専攻とする学生は、外国語学科の中の一つの日本語プログラムで学んでいる。日本語教育はマレーシアの 20 の国立大学のうちの 10 校で実施されているが、日本語 BA (Bachelor of Arts) プログラムは、2012 年末現在マラヤ大学にしかない。マラヤ大学の日本語教育は、1966 年の人文社会学部に日本語講座が開設されたことに始まる。その後、1978 年に言語学部が設立している。

マラヤ大学の日本語教育実施形態の特徴の一つは、日本語 BA プログラムを持っているという点だけではない。先述の人文社会学部が日本研究プログラムを持ち、外国語学部でも日本語を主科目としている点も挙げられる。さらに、大学内に理系学部進学のための言語学部^{注7}を持ち、その中の一つのプログラムとして